

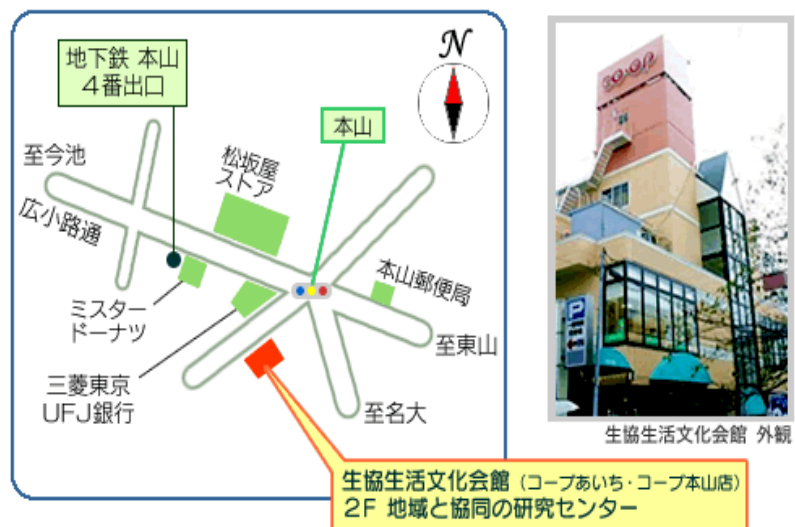
2014年度通常総会(第14回)

下記の通り、2014年度通常総会を開催します。

- 日時 2014年5月30日(金) 総会 10時30分～12時15分
- 会場 生協生活文化会館4階ホール
- 議題 第1号議案 2013年度事業報告と決算承認の件
第2号議案 2014年度事業計画と予算決定の件
第3号議案 第三期中期目標と計画(2014年度～2016年度)の件
第4号議案 理事・監事の選出及び顧問委嘱承認の件
第5号議案 定款の一部変更の件

<会場への交通>

地下鉄東山線 本山駅下車
4番出口より徒歩2分



2014年度総会記念シンポジウム

「消費税率アップと私たちの暮らし」

○日時：2014年 5月30日(金) 13時～15時30分

○講演：「消費税率アップと私たちの暮らし」

講師 中央社会保障推進協議会事務局長 山口 一秀 氏

4月1日から消費税率が8%になりました。増税分は社会保障財源どころか大型公共事業に使われ、社会保障負担増と給付減をあわせて国民負担増は10兆円ともいわれます。収入はなかなか伸びず、若い世代の非正規労働による厳しさ、高齢者の生活保護世帯の増加など、暮らしの不安要素はいっぱいです。

消費税率アップがもたらすもの、くらしや医療、自治体等の実情などを講演と事例報告で学びます。そして、私たちが安心できるくらしを実現するためにはどうしたらいいか、考えあいましょう！



第1号議案 2013年度事業報告と決算承認の件

I 2013年度活動で目標としたこと

2013年度は、人がつながり、協同することが厳しい社会状況のもとで、地域と協同の研究センターとして、市民協同組織と協同組合について、研究し、学び合い、実践を交流する場をつくることを目標としました。

第2期中期目標では、最終年度である2013年度の目標を次のように掲げました。

- ①国際協同組合年を契機として、協同を基礎とする組織や協同組合の価値と役割について深め合った内容を基に、協同組合が取り組む運動と事業に貢献できるようになります。
- ②地域で研究センターとしての学習・交流の場をつくることのできる仕組みを持ち、時々の課題・テーマで協同と協同組合の課題について探究し情報を交流できる仕組みをつくります。
- ③協同と協同組合を支える人を育む場として適切な仕組みを持ち、広く地域・協同組合から市民の参加がある組織を目指します。
- ④これらのことを達成する中で、協同の理念・価値・役割について社会的にも認められるようになり、そのことで地域と協同の研究センターを支える仕組み、人、財務の基礎を確立します。

2013年度はこの中期目標が実現できるよう、下記の取り組みを計画しました。

- ①2012国際協同組合年でつくってきた協同組合の連帯を基礎に、豊かな協同組合らしい価値を創り、市民協同組織と協同組合のあり方について一緒に考えます。
- ②特に時々のテーマに応える仕組みを準備し、協同組合の実践に関わって、今の「非正規雇用の広がり」「格差の広がり」等、考え合うべき内容についてその場をつくることのできるようにします。
- ③この間検討してきた協同組合を学び合える場「協同の未来塾」を、2014年度に開講できるよう準備します。
- ④協同組合に関する情報を蓄積し、必要な情報を適切に発信し、またその仕組みを支える会員組織と財務の基礎をつくります。

この4つの計画に対し、下記のような成果があり、課題が見えてきました。

- ①市民協同組織と協同組合のあり方について考え合う場として、国際協同組合デー記念企画、第10回東海交流フォーラムを開催し、協同組合・市民協同組織の豊かな実践を交流し学び合うことができました。
- ②総会記念シンポジウムでは「TPP交渉参加と今後の動向」について、「食と農」「環境」パネル合同では第4回「原発事故と私たちの暮らし」について等、時々のテーマについて学ぶ場を設けました。
- ③協同組合・市民協同組織の学び合う場として、職員の学びの場「協同の未来塾」を2014年度より開講できました。名古屋市立大学で寄付講義「現代社会と人と地域のつながり」が2014年下期開講となりました。
- ④協同組合に関わる情報の交流・蓄積の中で発信について、研究センターニュース、ホームページ、SNSなど見直しをすすめ、2013年度から新しいあり方を試行しています。

II 2013年度事業のまとめ

1. 協同組合運動の理念・役割・あり方の探究

2012国際協同組合年での取り組みを土台に、7月7日（土）国際協同組合デーに、記念行事「『災害復興と協同組合』—発災から復興まで 協同組合が果たしてきた役割に光をあてる—」に取り組みました。

(1) 生協の（未来の）あり方研究会

2013年度、「生協の（未来の）あり方研究会」では、研究成果を出版物にまとめ、10月「未来を拓く協同の社会システム」を発行しました。2014年4月に、発行記念研究集会を開催しました。

(2) 国際協同組合デー記念行事

2013年国際協同組合デー記念企画として、「災害復興と協同組合」—今日的に 協同組合が果たしている役割に 光をあてる—をテーマに、JA愛知中央会・コープあいち・地域と協同の研究センターが協力して主催しました。いわて生協副理事長内澤祥子氏とJA岩手中央会常務理事畠山房郎氏から現地の今を報告いただき、JA愛知中央会とコープあいちからは復興支援の報告をいただきました。（参加140名）

国際協同組合デー記念行事



(3) 第10回東海交流フォーラム

地域で安心できる暮らし、よりよいくらしをめざし、人のつながり、協同の力ですすめる協同組合、市民協同組織の実践を交流し合うことを目的に、第10回東海交流フォーラムを開催しました。(参加105名)

テーマ：「地域で人をつなぎ未来をつくる！」

副題：～あなたは、誰かとつながっていますか？あなたは、今、しあわせですか？～

日時・会場：2014年2月8日(土) 10:30～15:30 生協生活文化会館4階 ホール

	企画	参加
講演	講演 「地域社会における協同の力と役割」 中京大学現代社会学部准教授 小木曾洋司氏	105名
報告	①地域のつぶやき 集めてつくる まざり合いの まちづくり 「南生協よってって横丁」南医療生活協同組合 非常勤常務理事 増田 美紀氏 ②大府市横根町での移動店舗と地域交流の取り組み報告 生活協同組合コープあいち 大府センター波多野氏、田村氏、竹本氏、平林氏 ③「コープぎふ おたがいさま東部」設立準備状況等の報告 生活協同組合コープぎふおたがいさま東部準備会 佐藤 郷子氏、大山 豊氏、 ④組合員参加の地域づくりについて伊賀エリア会活動報告 生活協同組合コープみえ伊賀エリア会 速見正子さん、森本 幸代氏、阪 達男氏 ⑤みんなでつくろう新店舗～クレアチオの挑戦～ 金城学院大学生協 全国大学生協連東海ブロック藤井 千明氏、山本 昌也氏	

第10回東海交流フォーラム



《第10回東海交流フォーラムの感想から》

「各生協の報告からたくさんのヒントをいただきました。」

「孤の問題、自宅の開放、共食、街に住む、女性の地域での社会性など、いくつかの重要なキーワードを教えてくださいました。自宅の開放は自分の地域でも少しずつ実践していきたい。」

「『人とつながる』『地域とつながる』『生協をやっている』良かったと感じました。」

「地域の問題は、自分の問題として考えることと捉えることも大切であるということがわかりました。」

(4) 社会で課題になっていることに対して

総会記念シンポジウムで、「TPP交渉参加と今後の動向」をテーマに、2013年5月30日(木)開催し、講演を「TPPと私たちの暮らし」を農林中金総合研究所顧問特任研究員の行友弥氏に行っていただきました。また、TPP(環太平洋連携協定)に関して、考えられるその影響について、弁護士、農業協同組合、生活協同組合のそれぞれの立場から報告いただきました。(参加93名)

2. 協同の主体づくり・担い手づくりと学びと気づきの支援

学びと気づきの場づくり支援では、各生協の要請に応じてきました。また地域と協同の研究センター主催で、第5期「共同購入事業マイスターコース」、「組合員理事ゼミナール」を実施し、「協同の未来塾」を2014年度開講する準備をすすめました。

(1) 各生協での職員を中心とした学びと気づきの場づくり支援

各生協の要請に応え、学びと気づきの場づくり支援に取り組みました。

2013年度支援を実施した生協には、①コープあいち、②東海コープ事業連合、③コープあおもり、④社会福祉法人「協同福祉会」あすなら苑、⑤京都生協、⑥エフコープ、⑦(株)パルライン、⑧コープ九州事業連合などでの支所長や店長のゼミナール、職員の自己発見塾等があります。支援により職員の变化、事業実績での变化の報告があります。2014年度も引き続き支援要請があり、計画について相談しました。

(2) 共同購入事業マイスターコースの開催

2013年度、第5期「共同購入事業マイスターコース」を開講し、東海の3生協、委託業者(トランコムDS株式会社、株式会社アシスト)から24名の参加がありました。第1単元から第7単元まで、企画委員を中心に開

講し、2014年2月16日（日）の修了式では、一人ひとりにマイスターバッジと修了証が、代表理事より手渡されました。2014年1月11日（土）には、第4期の受講生を対象に、実践交流会を開催しました。

参加者の感想から

「共同購入の仕事とはなにか、深いところまで考えたことはなかった。コープあいちの他の担当や他生協の担当との交流、さまざまな考え方がいい刺激となりました。私は、コミュニケーションということの重要性を再認識できたことが最大の収穫であった。」

「今回のコースを通して、一番感じたのは生協の担当とは、可能性を無限大に秘めているということです。マニュアル化されておらず、組合員さんを主人公としてお一人お一人を見て、どう関わりを持てるかが大事だと改めて感じました。」

第5期マイスターコース修了式



(3) 組合員理事ゼミナールの開講

2012年度に引き続き、東海の3生協（コープぎふ、コープあいち、コープみえ）の新任組合員理事16人を対象に、世話人会で相談して、組合員理事ゼミナールを開講しました。（5回の単元）

受講者のふりかえりから

「私はこのゼミナールで色々な経験をさせてもらいました。特に、いつも行なっていたグループワークは愛知、三重の理事の皆さんと語り合い、おしゃべりする事でいつも楽しく参加できました。話すことで同じ悩みがあるんだなあと思い共感し、元気をもらったり勇気づけられたり、私にとってとても有意義なものでした。」

(4) 協同の未来塾

コープぎふ、コープあいち、コープみえ、東海コープ事業連合が参加し、研究者にも協力いただいて企画委員会を開催し、準備をすすめ、2014年3月に第1期の「協同の未来塾」を開講しました。

3. 協同で支える領域別テーマごとの交流・地域での交流

(1) 4つの領域でのパネル

①食と農（食をささえる地域農業と食育）パネル

継続できる農業のあり方を調査することを目的に、今年度も7月13日「日本農業の現状に学ぶ」学習会を行いました。2013年10月30日には「白川町における集落営農の実例に学ぶ」見学調査活動を行いました。

日程	企画	内容
7月13日	「日本農業の現状に学ぶ」学習会	岐阜大学教授・研究センター理事荒井聡氏に講演いただき、食料自給率、集落営農、継続できる農業の今後について考えあいました。（参加22名）
10月30日	「白川町における集落営農を学ぶ」調査	大寺集落営農組合の組合長さんに、集落営農の経過や活動、食文化の継承、地域づくりについてお話をお聞きしました。（参加9名）

②環境（自然の環 人の輪）パネル

東海の3生協で取り組んでいる環境活動について、各生協から担当する職員も参加し、情報交流を重ねてきました。2013年4月に多度の「イヌナシ自生地」花見学、5月に「バイオプラザなごや」の施設見学、7月に「アライダシ原生林エコトレッキング」を、主催コープぎふ、共催研究センター環境パネルで開催しました。

日程	企画	内容
5月22日	「バイオプラザなごや施設見学」	バイオプラザの村平さんから、食品残渣を活用した肥料について施設を見せていただきながら取組状況についてお聞きしました。（参加15名）
7月28日	「アライダシ原生林エコトレッキング」	恵那市上矢作町の「アライダシ自然観察教育林」を福寿の里自然クラブの方に案内していただきながら散策しました。（コープぎふ共催で参加38名）

③食と農・環境パネル 合同

「原発事故と私たちの暮らし」をテーマに食と農・環境パネル合同で第4回学習交流会を開催しました。また関連した内容の情報収集に努め、発信し合い、今後のエネルギー問題に関して情報を蓄積してきました。

日程	企画	内容
7月20日	第4回原発事故と私たちの暮らし学習交流会	あいち年金者大学元代表・研究員のノ瀬正巳氏から「くらしの見直し」が必要との講演があり、研究センター理事田邊準也氏から、「消費者は命の再生産の立場で考えたい」と話題提供がありました。(参加50名)

④地域福祉を支える市民協同 パネル

地域の福祉(くらし)を的確にとらえるために、歴史的経緯を振り返りながら今の社会状況についての学びを進めました。その中で社会的包摂というキーワードを見つけ、地域の市民協同について活動の担い方や組織の有り様について関心が生まれ、地域福祉の意味について、東北の震災愛知被災者支援活動を注目してきました。

日程	企画	内容・テーマ
5月23日	①愛知高齢者生協理事長長谷川勝彦さんの話 ②2013年度パネルについて	①高齢協の成り立ちと愛知高齢協の事業と活動について知る ②時代や社会状況についての認識をパネルとして掴むには
7月9日	小木曾洋司先生の講義・・・格差社会の出現：「日本型生活保障」の瓦解	セーフネットと社会参加の保障としての福祉/格差社会の貧困と信頼の関係/社会的包摂とアクティビスト等
9月6日	講義「高齢者への配食ボランティア活動と相互自助＝協助」講師：橋本吉広さん	友愛・協同研究会年報03掲載論文「高齢者配食ボランティアと友愛」への関心に基づいて
11月2日	ボランティアグループ月木会の活動の担い手から聞く等	ボラで関わる、高齢者のための高齢者による配食活動について問題共有化◇話題提供「ユニバーサル就労」について
2014年1月11日	事例「あいち あんきネットとは？」 小木曾先生の話：社会的包摂について	社会的包摂への関心に基づき、あいちあんきネットさんから、組織概要と具体的事例について聞く
3月24日	2014年度のパネルづくりについて 行動計画について(素材探し意味探し)	研究的アプローチで現場へ行こう◇愛知県瀬戸市にある「窯の広場」の今/岐阜県郡上市生屋集落への関心

※ミニ冊子No.4「愛知高齢者生協理事長長谷川勝彦さんの話」9/6発行 ◆ニュースレター第6号9/6 発行

※ミニ冊子No.5「高齢者への配食ボランティア活動と相互自助＝協助」12/21発行

⑤研究フォーラム職員の仕事を考える

3生協(コープみえ・ぎふ・あいち)の、「みんなで課題を達成する」ことを大切にしているセンター長・支所長のヒアリングに取り組みました。また、13人の組合員さんの聞き取り調査に取り組みました。

日程	企画	内容
8月29日	コープみえ大安センター 宮部センター長ヒアリング	センター長より「数字は大切ですが『中身』を大切にしていきたい」と、一人一人の話を聞き、取り組む実践についてお聞きしました。
12月11日	コープぎふ飛騨支所 児玉支所長ヒアリング	支所長より「働くメンバーのつながりを大切にしている」等の話を聞き、『今週のきらりと輝きさん』の取り組みをお聞きしました。
3月1日	コープあいち守山センター 巾センター長ヒアリング	担当者と向き合い、グループ運営で個人目標を設けない目標、朝礼や全体学習会を自分たちで計画する運営等お聞きしました。

第10回三河地域懇談会

(2) 地域懇談会

①三河地域懇談会

第10回三河地域懇談会は「地域のことを知ろう・語ろう～豊川市のまちおこしに学ぶ～」をテーマに豊川商工会議所にて開催しました。意外と知らない地域のことを、知る機会にしたいと実行委員会では話し合い、準備をしました。



日程	企画	内容
4月22日	「佐久島へ行こう!!」	西尾市佐久島振興課の方から、佐久島の自然とくらしについてお聞きし、島を美しくする会の初代会長より、街づくりのお話をお聞きしました。(参加15名)
11月16日～17日	第10回三河地域懇談会	基調講演では、「『豊川いなり寿司』で豊川市をもりあげ隊」隊長笠原盛泰さんからB-1グランプリ in 豊川の取り組みについてお聞きし、その他「我がJAと地域のつながり」「穂の国の歴史入門」「東三河の戦跡を通して平和を語り継ぐ」と4つの報告を聞いて、分散会で意見を交流しました。(参加40名)

②三重のつどい

2013年度は、獣害を考えるために行政の協力も得て「鹿肉を使った簡単フレンチ講習会」に取り組み、また元気に取り組まれている地域おこしの事例調査に取り組みました。

日程	企画	内容
8月19日	鹿肉を使った簡単フレンチ講習会	県内で獣害が増加していることから、消費者としてできることを鹿肉の調理の仕方を学ぶ機会を持って考え合いました。(参加36名)
9月4日	多気町「まごの店」視察	高校生レストランで話題の多気町の取り組みを学ぶ場をつくりたいと、世話人で「まごの店」を視察してきました。(参加7名)
1月29日	「大山田農林業公社」「いがまち山里の幸活用組合かじか」の調査(伊賀市)	公社代表より、伊賀市内で取り組まれている菜の花プロジェクトについてお聞きし、工場の見学と菜種生絞り体験をさせていただきました。「かじか」では組合長から、鹿肉の処理について伺いました。(参加7名)

③岐阜地域懇談会

2012年に続いて、「岐阜を知ろう、つながろう」を合い言葉に、4月には「楽しく集落づくりをしている和良を学ぼう」と和良に出かけ、活動の様子を学び、地域のお祭りも見学しました。11月には、「やまがた」の若者と元気なお母さんたちと交流しました。元気なお母さんたちからうかがったくらしの様子は、豊かで、愉快で、豪快で、知恵にあふれていました。

日程	企画	内容
4月21日	楽しく集落づくりをしている和良を学ぼう	和良で事務局小林さんより地域を元気にするために、「和良おこし協議会」として取り組んできた3つの事、「田んぼオーナー制度、和良鮎のブランド化、T型集落点検」について学び、地域のお祭りも見学しました。(参加18名)
11月5日	「やまがた」の若者と元気なお母さんたちと交流	住んでいる地域を大切に、その暮らしを残していきたい地元出身の集落支援員と、都会出身の地域おこし協力隊の方の思いをお聞きし、農家レストランを運営されている元気な北山のお母さんたちと交流しました。(参加9名)

④「安心して暮らせるまちづくりのつどい」への参加(尾張地域懇談会に関連して)

2014年3月10日(月)にコープあいちが呼びかけ、実行委員会主催で「安心して暮らせるまちづくりのつどい」が開催されました。開催には地域と協同の研究センターも実行委員として参加しました。

コープあいち、東海コープ事業連合商品安全検査センター、愛知県・名古屋市・中核市・東海農政局等で開催しているリスクコミュニケーション情報交換会に、地域と協同の研究センターとして参加しました。

4. 会員による多様な研究センター活動の支援

①ものづくりの思いを語る会の支援

「ものづくり」には企業理念が一番大切ということを話し合ってきました。10月4日、第26回となる「ものづくりの思いを語る会」を、「瑞逢社」(愛西市)で開催しました。「食品残渣を飼料とするのは、まだ食べられるのにもったいない。何かに生まれ変わらせることができれば。」という紹介があり、工場見学を行い、手作り餃子の調理実習をしました。

②くらしを語りあう会の支援

2011年度に文集「新しい日常へー 3. 11後のくらし」をまとめたメンバーが呼びかけてつくった「みんなが気軽にくらしの中で気づいたことをおしゃべりし、発信する場」としての「くらしを語りあう会」は、2013年度、6回開催しました。話し合う内容は、原発、リニア新幹線から、生協商品案内に載っている「大根おろし」についてまでさまざまです。ニュースを発行して話し合ったことを発信しています。

③第三期研究奨励助成

第三期研究奨励助成は、2012年度から取り組み、2013年度5件の研究成果が提出されました。

2014年度に報告会の開催と報告集の作成を検討します。

5. 協同に関わる情報の蓄積と社会的発信

研究センターからの情報の共有化、発信の改善として、NEWSは企画の案内や活動報告の速報などを情報クリップとあわせ毎月発行とし、企画の案内や活動報告の速報をホームページ・FACEBOOKで発信して

きました。また「増刊・研究センターNEWS」第1号を編集委員会で検討し、情報誌として市民や実践家・研究者による、交流・情報交換の場として発行しました。「よくまとまっている」との評価がある一方で、読んでいない方も多くあり、さらなる改善が求められています。

6. 研究センターの組織強化

パネル、地域懇談会等の取り組みを広げ、また、情報発信について改善し、お知らせを広げ、地域と協同の研究センター会員のお誘いに取り組んできました。その結果、2013年度は個人正会員で12人、個人賛助会員で6人、新規加入がありました。

団体会員としては大学生協東海事業連合の加入がありました。

しかし、いろいろな事情から退会もあり、組織強化を図るまでには至りませんでした。

7. 研究センターNEWS（ニュース各号の主な記事）

	巻頭	パネル発・地域発・会員発の発信
107号 2013/4/25	救貧法とニュー・ラナーク 金城学院大学人間科学部教授 朝倉美江	第9回東海交流フォーラムを開催しました！、「近藤園芸」見学調査会 食と農パネル、私の暮らしの中の生協商品3、「せいのわの里・まめや」取り組みに学ぶ
108号 2013/6/25	アジアに生きる日本国憲法 アジア・ボランティア・ネットワーク東海 森 賢一	2013年度総会記念シンポジウム報告、多度の『イヌナシ自生地』保全活動とイヌナシのお花見、楽しく集落づくりをしている「和良を学ぼう」、佐久島～何もないことを楽しむ～
109号 2013/8/25	ニュースの発行方法を変更します!! 専務理事 向井 忍	第4回「原発事故と私たちの暮らし」連続学習交流会 環境パネル アライダシ原生林エコトレッキング 食と農パネル 日本農業の現状に学ぶ学習会
110号 2013/10/25	「回路」愛知書房・研究センター食と農パネル世話人会 田中義二	「三重のつどい」鹿肉を使った簡単フレンチ講習会、「ラーニングアバー横蔵・樹庵 夏祭りに参加、ものづくりの思いを語る会 企業理念、建前でない社是とその実践を語り合う
111号 2013/11/25	生産者と消費者の交流が培った本物の味にふれる 岐阜大学応用生物科学部教授 荒井聡	「食と農パネル」調査見学報告 白川町における集落営農の実例に学ぶ、「コープみえの宮部センター長にお聞きしました！」「アライダシ原生林エコトレッキング」とコープぎふ
112号 2013/12/25	生協運動への期待 日本福祉大学経済学部教授 近藤充代	特集 第10回三河地域懇談会地域のことを知ろう・語ろう～豊川市のまちおこしに学ぶ～開催報告
113号 2014/1/25	なぜ今「つながり」なのか？ 中京大学准教授・研究センター理事 小木曾洋司	産消提携商品「米たまご」を広めたい！、地域福祉を支える市民協同パネルは・・・、地域を元気にしようがんばっている「やまがた」の若者と元気なお母さんたちと交流しました
114号 2014/2/25	高齢化社会への対応、団塊世代の当事者として 地域と協同の研究センター理事 仲田伸輝	共同購入事業マイスターコース第4期生実践交流会、コープぎふ飛騨支所児玉支所長にお聞きしました！「あほ兄イの農小」開校20周年・・・ひととなった小学生1500人
115号 2014/3/25	地域と協同の研究センターが法人化のころ 地域と協同の研究センター理事 大学非常勤講師 橋本吉広	第10回東海交流フォーラム開催、三重のつどい「大山田農業公社」「いがまち山里の幸利用組合かじか」、「消費者（三重県民）向け中部電力電気料金値上げ説明会」開催

III 組織・機関運営のまとめ

1. 第13回通常総会を、2013年5月30日（木）に、生協生活文化会館4階ホールにて開催しました。

出席状況は、次の通りです。

第13回通常総会

	出席者	実出席	書面表決	会員数
個人会員	162	74	88	238
団体会員	16	8	8	18
合計	178	82	96	256

各議案の採決結果は下表の通りです。

過半数の賛成で、2012年度事業報告と決算承認の件（第1号議案）は承認され、2013年度事業計画と予算決定の件（第2号議案）は過半数の賛成で提案通り決定されました。第3号議案役員の一部補欠選出の件は、理事会からの推薦者1名の理事の立候補があり、投票の結果、過半数の信任をもって選出されました。



<議案毎の採決結果>

	議案	賛成	反対	保留
第1号議案	2012年度事業報告と決算承認の件	175	0	1
第2号議案	2013年度事業計画と予算決定の件	174	0	2

2. 理事会の開催

2013年度、下表の通り理事会を開催しました。

	回数	開催日	主な議題
1 2 年度	第7回	4月26日(土)	1. 第13回総会議案書について 2. 第13回総会の運営について 3. 第13回総会記念シンポジウムについて
	第1回	5月30日(土)	1. 2013年度の役員体制について 2. 2013年度の理事会日程について 3. 2013年国際協同組合デー記念行事について
2 0 1 3 年度	第2回	7月6日(土)	1. 総会のまとめ・総会記念シンポジウムのまとめ 2. 2013年度の計画に関 わって 第10回東海交流フォーラム 研究センターNEWS等
	第3回	9月21日(土)	1. 7月6日国際協同組合デー記念行事のまとめ 2. 第10回東海交流フォーラ ム 3. 情報発信の見直しについて 4. 第3期中期目標の検討 等
	第4回	12月21日(土)	1. 第10回東海交流フォーラムについて 2. 第3期中期目標の検討 3. 寄付講義について 等
	第5回	1月25日(土)	1. 第10回東海交流フォーラムについて 2. 第3期中期目標について 3. 2014年度役員改選について 等
	第6回	3月15日(土)	1. 第10回東海交流フォーラムのまとめ 2. 2014年度総会の準備について 3. 総会記念シンポジウム 4. 第3期中期目標・2014年度計画について 等

常任理事会は、2013年度、次の通り計12回開催しました。

2012年度第10回4月11日、第11回5月16日

2013年度第1回6月26日、第2回7月12日、第3回8月9日、第4回9月6日、第5回10月3日
第6回11月21日、第7回12月4日、第8回1月14日、第9回1月31日、第10回2月27日

3. 会員組織

会員の異動は次の通りです。2013年度末の会員数は、正会員個人235人・団体17団体、賛助会員個人92人・団体2団体となりました。(2014年3月20日現在)

	正会員		賛助会員	
	個人	団体	個人	団体
期首会員	244	18	93	2
加入	12	0	6	0
退会	21	1	7	0
移行	0	0	0	0
期末会員	235	17	92	2

4. 法人としての行政への対応など

①特定非営利活動促進法に基づき、2012年度事業報告書を名古屋市に提出しました。(2013/6/19)

②法務局に資産の総額変更登記を行いました。(2013/6/19)

③2012年度決算にもとづき税務申告を行い納税しました。納税額は次の通りでした。

国税	法人税	0円	(課税対象となる事業所得への課税税率18%、赤字決算のため0)
地方税	県民税	21,000円	(法人税の5%+均等割2万円+あいち森と緑づくり税均等割)
	事業税	0円	(所得金額の5%、赤字決算のため0)
	市民税	47,500円	(法人税の11.685%+均等割47,500円)
	消費税	413,100円	(2007年度より、納税義務者となりました。)

※特定非営利活動法人ではありますが、税法上の収益事業により発生した所得については課税されます。

IV 2013年度決算報告

1. 決算の概要

2013年度収支バランス

(単位 千円、端数切り捨てで表示しています)

収入の部		支出の部		収支差額	
	前年度繰越金	14,903			
経常収支	会費収入	19,781	運営費	888	▲5,045
	(うち維持会費)	18,060	管理費	23,938	
	事業収入	14,188	事業費	9,434	+4,754
	(うち学びと気づき支援収入)	7,138	(うち学びと気づき支援費)	2,905	
	(うち学習・研修事業収入)	4,670	(うち学習・研修事業費)	1,873	
	その他収入	731			
当期収入計	34,702	当期支出計	34,262		

会費収入が19,781千円(個人会費6,190千円、団体会費9,600千円、賛助会費1,420千円、維持会費18,060千円)となり、対応する運営費・管理費の支出が24,826千円で、収支差額は▲5,045千円となりました。これを事業収入14,188千円と事業費の9,434千円の差額4,754千円で補っています。この構造は、維持会費を減額し、学びと気づき支援や、マイスターコースと組合員理事ゼミナールの受講料等の事業収入で補う構造で収支構造をつくってきたためです。その他収入も加えて、2013年度収支は440千円のプラスとすることができました。

2. 2013年度決算書

2013年度の貸借対照表・収支計算書・財産目録は、次の通りです。

2013年度貸借対照表 (単位 円)

2014年3月20日現在

科 目		金 額	
I 資産の部			
1 流動資産			
現金・預金			
	小口現金	103,516	
	普通預金	12,165,905	
	郵便振替口座	4,317,359	
			16,586,780
	未収金		754,830
	仮払消費税		0
	流動資産合計		17,341,610
2 固定資産			
	什器備品		0
	ソフトウェア		0
	固定資産合計		0
	資産合計		17,341,610
II 負債の部			
1 流動負債			
	未払金	1,495,742	
	未払法人税	68,500	
	未払消費税	434,100	
	仮受消費税	0	
	流動負債合計		1,998,342
2 固定負債			
	長期借入金		0
	退職給与引当金		0
	固定負債合計		0
	負債合計		1,998,342
III 正味財産の部			
1 期首正味財産			
		14,903,159	
2 当期正味財産増減額			
		440,109	
	正味財産合計		15,343,268
	負債及び正味財産合計		17,341,610

2013年度収支計算書 (単位 円)

2013年3月21日~2014年3月20日

	2013年度実績	2013年度予算	予算比	2012年度実績	前年比	2013年度収支の内容
(経常収支の部)						
I. 経常収入の部						
1. 会費収入	19,781,500	20,360,000	97.2%	20,182,500	98.0%	
1)個人会費	619,000	800,000	77.4%	658,500	94.0%	2013年度は個人会員が減少した分、会費収入も減少しました。
2)団体会費	960,000	1,350,000	71.1%	1,320,000	72.7%	
3)賛助会費	142,500	150,000	95.0%	144,000	99.0%	
4)維持会費	18,060,000	18,060,000	100.0%	18,060,000	100.0%	
2. 事業収入	14,188,996	12,018,500	118.1%	13,856,967	102.4%	
1)学習・研修支援事業収入	7,373,666	7,000,000	105.3%	8,042,568	91.7%	
学びと気づき支援収入	7,138,293	6,600,000	108.2%	7,669,518	93.1%	学びと気づき支援は102コマです。
学習・交流支援収入	235,373	400,000	58.8%	373,050	63.1%	地域のつどい・地域懇談会関連の収入です。
2)主催事業収入	6,754,756	4,918,500	137.3%	5,398,395	125.1%	
学習・研修事業収入	4,670,484	4,518,500	103.4%	4,666,198	100.1%	共同購入マイスターコース・組合員理事ゼミの収入です。
調査・研究事業収入	2,084,272	400,000	521.1%	732,197	284.7%	「未来を拓く協同の社会システム」の利用代金がプラスになっています。
3)受託事業収入	0	0	0.0%	142,858	0.0%	
受託研修収入	0	0	0.0%	0	0.0%	
受託調査・研究収入	0	0	0.0%	142,858	0.0%	
4)情報サービス事業収入	60,574	50,000	121.1%	23,146	261.7%	在庫書籍の販売分(東海交流フォーラム等)です。
5)研究事業準備金取崩	0	50,000	0.0%	250,000	0.0%	
3. その他収入	731,784	781,300	93.7%	785,379	93.2%	
1)寄付金・協賛金	605,000	670,000	90.3%	672,157	90.0%	くらしと協同の研究所から。
2)受取利息	1,276	1,300	98.2%	1,366	93.4%	
3)雑収入	125,508	110,000	114.1%	111,856	112.2%	用紙代、印刷代等です。
経常収入合計(a)	34,702,280	33,159,800	104.7%	34,824,846	99.6%	
II. 経常支出の部						
1. 事業費	9,434,954	8,181,000	115.3%	9,641,118	97.9%	
1)学習・交流支援事業費	3,454,277	3,410,000	101.3%	3,958,350	87.3%	
学びと気づき支援費	2,905,199	2,810,000	103.4%	3,269,382	88.9%	学びと気づきの支援経費です。
学習交流支援費	549,078	600,000	91.5%	688,968	79.7%	地域つどい・地域懇談会関連の費用です。
2)主催事業費	5,244,350	3,750,000	139.8%	4,642,091	113.0%	
学習・研修事業費	1,873,931	1,900,000	98.6%	2,244,662	83.5%	共同購入事業マイスターコース・組合員理事ゼミ等費用です。
調査・研究事業費	3,370,419	1,800,000	187.2%	2,147,429	157.0%	「未来を拓く協同の社会システム」仕入れ代金がプラスになっています。
奨励研究事業費	0	50,000	0.0%	250,000	0.0%	
3)受託事業費	0	0	0.0%	0	0.0%	
受託研修費	0	0	0.0%	0	0.0%	
受託調査・研究費	0	0	0.0%	0	0.0%	
4)情報サービス事業費	736,327	1,021,000	72.1%	1,040,677	70.8%	
研究センターニュース発行費	580,327	500,000	116.1%	519,677	111.7%	研究センターニュース(増刊号等)印刷代金と送料(ゆうメール等)です。
研究誌・報告書制作費	0	365,000	0.0%	365,000	0.0%	パネル、奨励研究報告冊子費用で2013年度は発行していません。
情報システム運用費	156,000	156,000	100.0%	156,000	100.0%	ホームページ運営費です。
2. 運営費	888,473	830,000	107.0%	790,766	112.4%	
1)総会開催費	253,803	230,000	110.3%	196,221	129.3%	総会シンポジウム・議案書費用です。
2)理事会等会議費	634,670	600,000	105.8%	594,545	106.7%	理事会・常任理事会・編集委員会費用です。
3. 管理費	23,938,744	24,088,600	99.4%	24,363,318	98.3%	
1)役員報酬	0	0	0.0%	0	0.0%	
2)職員給与・賞与	15,800,592	15,900,000	99.4%	15,864,251	99.6%	
3)通勤交通費	844,801	860,000	98.2%	864,673	97.7%	
4)法定福利費	2,236,824	2,200,000	101.7%	2,199,154	101.7%	
5)厚生費	185,338	150,000	123.6%	105,429	175.8%	
6)業務委託費	2,115,239	2,200,000	96.1%	2,306,489	91.7%	事務局スタッフ業務委託費等です。
7)事務用品費	862,389	630,000	136.9%	628,414	137.2%	用紙代、印刷代、ゼロックスプリント代等です。
8)備品費	137,000	130,000	105.4%	123,573	110.9%	2013年度にパソコンを1台購入しました。
9)研修調査費	128,863	130,000	99.1%	133,225	96.7%	事務局員の研修・セミナー参加費用です。
10)新聞図書費	101,177	100,000	101.2%	128,640	78.7%	新聞代、研究センター蔵書等の代金です。
11)広報費	0	10,000	0.0%	140,000	0.0%	
12)通信交通費	332,696	550,000	60.5%	658,752	50.5%	
13)施設・設備利用料	640,000	640,000	100.0%	640,000	100.0%	事務所賃借料です。
14)租税公課	471,074	467,600	100.7%	482,762	97.6%	法人税・消費税(見込み)等です。
15)会議費	953	0	0.0%	0	0.0%	
16)渉外費	25,000	53,000	47.2%	19,240	129.9%	諸会費です。
17)その他事務費	56,798	68,000	83.5%	68,716	82.7%	振込み手数料です。
経常支出合計(b)	34,262,171	33,099,600	103.5%	34,795,202	98.5%	
経常収支差額(c)=(a)-(b)	440,109	60,200	731.1%	29,644	1484.6%	
III. その他資金収入の部						
特別収入	0	0	0.0%	0	0.0%	
その他資金収入合計(d)	0	0	0.0%	0	0.0%	
IV. その他資金支出の部						
特別支出	0	0	0.0%	0	0.0%	
未払税金等繰入	0	0	0.0%	0	0.0%	
その他資金支出合計(e)	0	0	0.0%	0	0.0%	
その他資金収支差額(f)=(d)-(e)	0	0	0.0%	0	0.0%	
当期収支差額(g)=(c)+(f)	440,109	60,200	731.1%	29,644	1484.6%	
(正味財産増減の部)						
V. 正味財産増加の部						
正味財産増加の部合計	0	0	0.0%	0	0.0%	
VI. 正味財産減少の部						
奨励研究事業費繰入額	0	50,000	0.0%	250,000	0.0%	研究奨励助成が1件取り組まれませんでした。
正味財産減少の部合計	0	50,000	0.0%	250,000	0.0%	
当期正味財産増減額	440,109	10,200	4314.8%	-220,356	-199.7%	
前期繰越正味財産額	14,903,159	14,903,159	100.0%	15,123,515	98.5%	
次期繰越正味財産額	15,343,268	14,913,359	102.9%	14,903,159	103.0%	

科目		内 訳	金 額	
I 資産の部				
1 流動資産				
現金預金	現金	現金手元有高	103,516	
	普通預金	三菱東京UJF銀行	12,165,905	
	郵便振替	会費振込口座	4,317,359	
			16,586,780	
未収金	コープ九州事業連合		273,510	
	コープあおもり		241,670	
	あすなら苑		141,370	
	エフコープ		89,940	
	コープぎふ		8,340	
				754,830
仮払消費税			0	
流動資産合計				17,341,610
2 固定資産				
		什器備品	0	
		ソフトウェア	0	
固定資産合計				0
資産合計				17,341,610
II 負債の部				
1 流動負債				
未払金	コープあいち		1,180,592	
	東海コープ事業連合		44,100	
	愛知県労働者共済生協		32,000	
	業務委託・給与		239,050	
				1,495,742
仮受消費税			0	
未払法人税		未払法人税	68,500	
未払消費税		未払消費税	434,100	
流動負債合計				1,998,342
2 固定負債				
長期借入金			0	
退職給与引当金			0	
固定負債合計				0
負債合計				1,998,342
III 正味財産				
期首正味財産			14,903,159	
当期正味財産増減額			440,109	
正味財産合計				15,343,268
負債及び正味財産合計				17,341,610

以上、2013年度事業報告、決算報告とします。

2014年4月26日

特定非営利活動法人地域と協同の研究センター

代表理事 川崎 直巳 (コープぎふ理事長)
専務理事 向井 忍 (コープあいち参与)
常任理事 河原 洋之 (コープぎふ執行役員)
常任理事 仲田 伸輝 (社会福祉法人名南子どもの家前理事)
常任理事 竹内 輝彦 (コープみえ執行役員)
常任理事 渡邊 秀 (コープあいち執行役員)
理事 朝倉 美江 (金城学院大学人間科学部教授)
荒井 聡 (岐阜大学応用生物科学部教授)
井関 道夫 (元愛知学泉大学教授)
稲嶋 保之 (コープあいち労働組合執行委員長)
井上 庄吾 (JA愛知中央会専務理事)
伊藤 佐記子 (コープぎふ組合員)
大谷 光一 (全国大学生協連合会 東海ブロック事務局長)
岡田 祐成 (社会福祉法人なごや平和福祉会理事・施設長)
小木曾 洋司 (中京大学現代社会学部准教授)
川元 チエ子 (コープみえ理事)
黒川 富子 (社会福祉法人名北福祉会)
下里 玉美 (コープあいち理事)
武野 典子 (コープぎふ理事)
田所 登代子 (コープあいち理事)
田邊 準也 (東海コープ事業連合顧問)
成瀬 幸雄 (南医療生協専務理事)
西川 幸城 (東海コープ事業連合常務理事)
野田 輝己 (農業経営)
橋本 吉広 (大学非常勤講師)
服部 ゆかり (コープぎふ理事)
早川 喬 (農業・農協問題研究所三重支部世話人)
久永 直見 (愛知学泉大学教授)
平野 哲至 (会社コンサルタント)
向井 清史 (名古屋市立大学大学院教授)
山口 直子 (コープあいち組合員)
幸松 孝太郎 (関西学院大学 都市創造研究センター 客員研究員)
吉田 法子 (コープみえ理事)
兼子 厚之 (研究センター事務局)
事務局長 大島 三津夫 (研究センター事務局)

第2号議案 2014年度事業計画と予算決定の件

I. 2014年度事業計画の柱

第3期中期目標の柱は、研究センターの活動を、地域を軸にした活動にしていくことです。これまでつくってきた研究センターにおける様々な蓄積を、地域を軸とした協同の実現につなげつつ、求められるあり方を実践の中でつくり上げていきます。そのために2014年度は、2013年度までに積み上げてきた活動を土台に、「地域を軸とした研究センター活動」について、研究センターの事業にそったそれぞれの場で考え合い、そのあり方を探求し、支える仕組みづくりをすすめます。

第3期中期目標 2014年度の目標

研究センターが、地域を軸とした活動について、その内容を検討し、支える仕組みづくりをすすめます。

- ①地域懇談会・地域のつどいに取り組む中で、地域を軸にした研究センターのあり方と、それを支える仕組みについて検討していきます。
- ②地域を軸にした活動を会員・市民の参加ですすすめることができるための情報の交流・蓄積・発信について、これまでの研究センターのあり方を見直していきます。
- ③地域と協同の研究センターが取り組む協同組合・市民協同組織の理念と役割を深め合う場、学び合う場について、そのあり方を整理します。

II. 2014年度事業計画の構成と具体的な取り組み計画

1. 協同で支える領域別テーマごとの交流・地域での交流

地域と協同の研究センターの地域での活動の場として、「地域懇談会・地域のつどい」をつくってきました。2014年度は「地域懇談会・地域のつどい」に参加する会員・市民で実践をすすめる中で、地域を軸とした研究センターのあり方と支える仕組みについて検討していきます。

(1) 地域懇談会

①三河地域懇談会

この間、三河の各地域で、地域の方や団体と交流し、地域づくりなど考え合ってきた活動を継続していきます。またそこで得られた情報を発信しながら、生協組合員や職員が気兼ねなく参加でき、生協の地域活動にもつながる活動を考えていきます。

②三重のつどい

今まで取り組んできた三重地域の多彩な団体・個人の活動を学び、交流する場を継続してつくりながら、つながりを生かし、新しいテーマにもそうした団体・個人と協力し合い、取り組んでいきます。このような活動に取り組む中で、三重の地域での研究センター活動を考え合っていきます。

③岐阜地域懇談会

その場に行き、空気に触れることを大切に活動をすすめます。この間知り合った「村おこし協力隊員」「集落支援員」の仕事に向かう姿勢に注目し、その思いと志について地域のみなさんに伝えていきます。また、地域に暮らす元気な高齢者の姿も伝えていきます。今年はまだ踏み入れていない飛騨地方にも出かけ学ぶ場をつくりまします。

④尾張地域懇談会

尾張地域は、会員・市民がつどう場をつくり、地域を軸とした今後のあり方を考え合うことから始めます。

(2) 4つの領域でのパネル

地域を軸にした研究センター活動を構築していくためにも、東海の地域での情報を交流し、蓄積し、発信する活動をすすめてきたパネルの場は、引き続き重要な場となります。4つの領域でのパネルの場は、引き続き継続しながら、そこでも地域を軸とした研究センター活動について検討をすすめます。

①食と農（食をささえる地域農業と食育）パネル

これまでに取り組んできた継続できる農業のあり方についての学習会や調査の結果を踏まえ、2014年度は「食と農」について、協同組合・市民協同組織のみなさんにも参加いただき、考え合う場をつくりまします。その上で、各生協・市民協同組織の「食と農」の取り組み支援のため、調査活動を継続して行っていきます。

②地域福祉を支える市民協同パネル

地域の課題に対する取り組みについて、社会的包摂とまちづくりをキーワードに、瀬戸の事例に着目し、訪問調査しながら学び合う場をつくりまします。また、地域づくりの担い手から話を聞き、問題点を探ります。これらは研究的視座で向き合い、年度を通しての取り組み、情報発信していきます。また岐阜地域についても検討を始めます。

③研究フォーラム職員の仕事を考える

これまで取り組んできたセンター長のヒアリングや組合員の聞き取り調査について継続し、調査結果についてはまとめて、紹介できるようにしていきます。

④環境（自然の環 人の輪）

各生協の環境活動を応援できるよう、一步すすんだ情報提供をめざして情報の集積をはかります。まず共通して「エネルギーを考える」をテーマに、碧南、武豊、新名古屋の火力、浜岡原子力等「発電所調査」に取り組み、得た情報を発信する工夫をします。

2. 協同組合の理念・役割・あり方の探究

地域と協同の研究センターがつくる場を通じ、会員・市民が、協同組合・市民協同組織に関わって交流し、学び合い、研究をすすめ、その理念と役割を深め合っていく活動に、研究センター活動の要として取り組みます。

(1) 協同組合・市民協同組織に関わる研究会

これまで「生協の（未来の）あり方研究会」が定例研究会を重ねて、その成果として2013年度「未来を拓く協同の社会システム」が出版され、研究集会も開催されました。こうした研究会の場を、引き続き研究センターとして支援していきます。

(2) 総会記念シンポジウム

総会シンポジウムは、協同組合・市民協同組織の取り組みに関わり、共通する社会的な問題・課題についてテーマを決め、その内容について学び合い、取り組みを報告し合い、実践的な交流をすすめる場としてきました。その主旨で引き続き取り組み、今後のあり方も検討していきます。

(3) 第11回東海交流フォーラム

東海交流フォーラムは、愛知・岐阜・三重という東海の地域で、協同組合・市民協同組織が、社会での変化や暮らしの課題に対応し、地域で実践する「協同」「たすけあい」の活動を持ち寄り、交流する場としてきました。そうした場として、協同組合・市民協同組織が実践事例を持ち寄り、第11回東海交流フォーラムを準備・開催します。

(4) 国際協同組合デー記念企画

国連が定める7月の第1土曜日「国際協同組合デー」記念企画を開催します。

3. 協同の主体づくり・担い手づくりと学びと気づきの支援

協同組合・市民協同組織を支える役職員を対象にした「学びと気づきの場」を継続し、新しく「協同の未来塾」を開講し、また名古屋市立大学での寄付講義に協同組合の力を基礎に取り組みます。

(1) 各生協での職員を中心とした学びと気づきの場づくり支援

各生協の要請に応え、学びと気づきの場づくり支援に取り組みます。

(2) 共同購入事業マイスターコース

第6期の「共同購入事業マイスターコース」を開講します。

(3) 組合員理事ゼミナール

東海の3生協の新任組合員理事を対象に、「組合員理事ゼミナール」を準備します。

(4) 協同の未来塾

東海の協同組合を対象に2013年度準備してきた「協同の未来塾」を開講します。

(5) 名古屋市立大学での寄付講義

名古屋市立大学での協同組合に関わる寄付講義「現代社会と地域と人のつながり」を開講します。

4. 会員による多様な研究センター活動の支援

(1) ものづくりの思いを語る会の支援

企業の代表がものづくりの思いを交流する「ものづくりの思いを語る会」の開催を引き続き支援します。

(2) 第3期研究奨励助成報告会の開催

2012年度から始め、2013年度報告書をまとめられた内容の報告会を開催し、報告集を発行します。

5. 協同に関わる情報の蓄積と社会的発信

地域を軸とした研究センター活動のあり方を探求し、その活動を支える情報の蓄積と発信について、現在の情報媒体の見直しを、会員の参加ですすすめていきます。

6. 研究センターの組織づくり

地域を軸とした研究センター活動のあり方を支える組織づくりを引き続きすすめます。

3. 2014年度予算 (単位 円)

2014年3月21日～2015年3月20日

	2014年度予算案	2013年度実績	2013年度比	2014年度予算の内容について
(経常収支の部)				
I. 経常収入の部				
1. 会費収入	20,280,000	19,781,500	102.5%	
1)個人会費	780,000	619,000	126.0%	正会員50人増の目標とします。
2)団体会費	1,290,000	960,000	134.4%	団体会員1団体増の目標とします。
3)賛助会費	150,000	142,500	105.3%	賛助会員20人増の目標とします。
4)維持会費	18,060,000	18,060,000	100.0%	
2. 事業収入	13,060,574	14,188,996	92.0%	
1)学習・研修支援事業収入	5,000,000	7,373,666	67.8%	
学びと気づき支援収入	4,600,000	7,138,293	64.4%	65コマでの予算です。
学習・交流支援収入	400,000	235,373	169.9%	地域懇談会等での収入です。
2)主催事業収入	8,000,000	6,754,756	118.4%	
学習・研修事業収入	7,500,000	4,670,484	160.6%	マイスターコース、理事ゼミ、協同の未来塾受講料です。
調査・研究事業収入	500,000	2,084,272	24.0%	パネル企画、東海交流フォーラム、研究会等の資料代等です。
3)受託事業収入	0	0	0.0%	
受託研修収入	0	0	0.0%	
受託調査・研究収入	0	0	0.0%	
4)情報サービス事業収入	60,574	60,574	100.0%	書籍販売での収入です。
5)研究事業準備金取崩	0	0	0.0%	2014年度研究奨励助成は行いません。
3. その他収入	716,300	731,784	97.9%	
1)寄付金・協賛金	605,000	605,000	100.0%	
2)受取利息	1,300	1,276	101.9%	
3)雑収入	110,000	125,508	87.6%	用紙代、印刷代等での収入です。
経常収入合計(a)	34,056,874	34,702,280	98.1%	
II. 経常支出の部				
1. 事業費	8,601,000	9,434,954	91.2%	
1)学習・交流支援事業費	2,600,000	3,454,277	75.3%	
学びと気づき支援費	1,800,000	2,905,199	62.0%	65コマでの予算です。
学習交流支援費	800,000	549,078	145.7%	愛知(三河・尾張)・岐阜・三重の地域懇談会・地域のつどい等の費用です。
2)主催事業費	4,900,000	5,244,350	93.4%	
学習・研修事業費	3,000,000	1,873,931	160.1%	マイスターコース、理事ゼミ、協同の未来塾等の費用です。
調査・研究事業費	1,900,000	3,370,419	56.4%	パネル、研究会、東海交流フォーラム、研究会等の費用です。
奨励研究事業費	0	0	0.0%	
3)受託事業費	0	0	0.0%	
受託研修費	0	0	0.0%	
受託調査・研究費	0	0	0.0%	
4)情報サービス事業費	1,101,000	736,327	149.5%	
研究センターニュース発行費	580,000	580,327	99.9%	研究センターニュース等の印刷費、メール便費等です。
研究誌・報告書制作費	365,000	0	0.0%	研究奨励助成の報告集、パネルの報告集等の費用です。
情報システム運用費	156,000	156,000	100.0%	ホームページ運営費です。
2. 運営費	830,000	888,473	93.4%	
1)総会開催費	230,000	253,803	90.6%	総会及び記念シンポジウム開催のための費用です。
2)理事会等会議費	600,000	634,670	94.5%	理事会・常任理事会・編集委員会開催のための費用です。
3. 管理費	24,531,000	23,938,744	102.5%	
1)役員報酬	0	0	0.0%	
2)職員給与・賞与	16,000,000	15,800,592	101.3%	事務局職員給与(コアプあいち出向者給与+アルバイト給与)です。
3)通勤交通費	860,000	844,801	101.8%	事務局通勤交通費(アルバイト契約での交通費を含む)です。
4)法定福利費	2,250,000	2,236,824	100.6%	社会保険料等の事業者負担分です。
5)厚生費	200,000	185,338	107.9%	健康診断費・安全運転教育費等の費用です。
6)業務委託費	2,200,000	2,115,239	104.0%	事務局スタッフ等の業務委託費です。
7)事務用品費	860,000	862,389	99.7%	用紙代、印刷代、ゼロックス代等の費用です。
8)備品費	260,000	137,000	189.8%	パソコンを2台購入する予定です。
9)研修調査費	130,000	128,863	100.9%	事務局の研修費用です。
10)新聞図書費	130,000	101,177	128.5%	新聞・雑誌・参考資料等の費用です。
11)広報費	10,000	0	0.0%	
12)通信交通費	350,000	332,696	105.2%	電話代、郵送料、事業費以外での交通費等です。
13)施設・設備利用料	640,000	640,000	100.0%	事務所賃借料です。
14)租税公課	520,000	471,074	110.4%	消費税率アップ、協同の未来塾の収入増加分を加算しました。
15)会議費	0	953	0.0%	
16)渉外費	53,000	25,000	212.0%	諸会費です。
17)その他事務費	68,000	56,798	119.7%	銀行等への振込み手数料です。
経常支出合計(b)	33,962,000	34,262,171	99.1%	
経常収支差額(c)=(a)-(b)	94,874	440,109	21.6%	
III. その他資金収入の部				
特別収入	0	0	0.0%	
その他資金収入合計(d)	0	0	0.0%	
IV. その他資金支出の部				
特別支出	0	0	0.0%	
未払税金等繰入	0	0	0.0%	
その他資金支出合計(e)	0	0	0.0%	
その他資金収支差額(f)=(d)-(e)	0	0	0.0%	
当期収支差額(g)=(c)+(f)	94,874	440,109	21.6%	
(正味財産増減の部)				
V. 正味財産増加の部				
正味財産増加の部合計	0	0	0.0%	
VI. 正味財産減少の部				
奨励研究事業費繰入額	0	0	0.0%	
正味財産減少の部合計	0	0	0.0%	
当期正味財産増減額	94,874	440,109	21.6%	
前期繰越正味財産額	15,343,268	14,903,159	103.0%	
次期繰越正味財産額	15,438,142	15,343,268	100.6%	

第3号議案 第三期中期目標と計画（2014年度～2016年度）の件

1. 第二期中期目標（2011年度～2013年度）に向けた活動の振り返り

2011年度の総会で第二期中期目標として下記の4つの項目を設定し、その具体化について、年度ごと計画をもってすすめてきました。

- ①<協同と協同組合の>よさを広げ深める
- ②<協同と協同組合を>実践する地域について深める
- ③<協同と協同組合を>支える人づくりをすすめる
- ④<協同と協同組合の>成果を蓄積・発信する

この4つの項目に関わって、2013年度までに下記のようなことに取り組んできました。

(1) <協同と協同組合の>よさを広げ深める

2012国際協同組合年を契機に、東海3県における協同組合の連携を広げるための役割を担い<協同と協同組合の>よさを広げ、そのあり方について深める場をつくってきました。

学び・交流し・研究する組織として2009年度から開催してきた生協の（未来の）あり方研究会は、2013年度にその成果となる出版物「未来を拓く協同の社会システム」を発行しました。

また、多彩な協同組合と市民協同組織の実践を東海交流フォーラムの開催は10回を重ねました。

一方で、「<協同と協同組合>のよさを広げ深める」ことは、それぞれの協同組合、市民協同組織が、その実践の中で取り組む内容でもあります。地域と協同の研究センターとして、どのような役割を果たしていくか、各会員との連携の中で明確にする必要があります。

(2) <協同と協同組合を>実践する地域について深める

第2期中期目標の期間に新しく岐阜地域懇談会を始め、三河地域、三重地域と合わせて、地域の会員の要望を元に、より身近なところで参加できる研究センター活動の場を広げてきました。

また4つの領域（食と農、地域福祉を支える市民協同、環境、生協職員の仕事）では、会員が自主的に集い、学び合い、交流し合い、研究するパネルの活動を継続してすすめてきました。第2期中期目標では「課題に対し、情報交流できる新しい場の創造、会員参加の自主的活動」を目標とし、従来つくってきた場だけでは補えない課題に対しても、会員が主体的に学びの実践を広げてきました。

(3) <協同と協同組合を>支える人づくりをすすめる

「研究センターの蓄積を生かした学び合う場づくり・担い手づくり」を一つの柱として取り組んできました。共同購入事業マイスターコース、組合員理事ゼミナール、協同の未来塾と3つの場をつくってきました。名古屋市立大学での寄付講義「現代社会と地域と人のつながり」も開講が決まりました。東海交流フォーラムを始め、パネルや地域懇談会など協同組合や市民協同組合組織に関わり、地域と協同の研究センターでつくるすべての場が、協同組合と市民協同組織、そして地域を支える人づくりにつながっていることも、第2期中期目標に向けた実践の中で見えてきました。参加する協同組合・市民協同組織にとって、地域と協同の研究センターがそのような場として充分生かされるよう、更なる改善も必要です。

(4) <協同と協同組合の>成果を蓄積・発信する

中期目標では「研究センターの活動を紹介する、会員が作成したNEWS研究成果の蓄積（研究誌の発行）と社会的な情報の発信」を掲げ、2013年度はホームページの改善、フェイスブックの新しいスタート、研究センターNEWSの見直しに取り組んできました。しかし、地域と協同の研究センターの活動を支える会員組織づくりは、目標とする内容をつくることはできませんでした。

2. 第三期中期目標の柱について

第三期中期目標で地域と協同の研究センターは、地域ごとに会員や市民が参加し、つながり、学び合い、情報を発信し合って、協同と協同組合に関わる活動を進められるよう、それを支える役割が果たせることをめざし、協同組合・市民協同組織が実践をすすめる場となる地域を軸にした活動を探求していきます。そうした研究センター活動をすすめるための地域での拠点のあり方を模索し、会員・市民のすすめる研究センター活動を支える仕組みをつくっていきます。

(1) 地域での役割を重視し、地域懇談会・地域のつどい等を基礎に地域を軸にした活動に取り組み、より会員に身近な地域と協同の研究センターを目指します。

①地域と協同の研究センターの取り組みは、今後地域を軸にすすめることを探求します。

2013年度までに取り組んできた三河地域懇談会、三重のつどい、岐阜地域懇談会の活動を基礎に、尾張地域も含め地域での研究センター活動が定着することを目指し、まずそれぞれの地域の協同組合・市民協同組織の参加で、地域でつどいための基盤づくりに取り組み、より会員に身近な研究センターを探求します。

②第三期中期目標の実践は会員・市民、みんなの参加ですすすめます。

目標とする研究センターの実践は、会員・市民、みんなの参加ですすすめます。各地域懇談会・地域のつどい、各パネルでは、これまでの活動を振り返り、参加する会員で実践をすすめながら、地域を軸にした研究センターのあり方を探求していきます。

(2) 協同組合・市民協同組織に関わる交流し、学び合い、研究をすすめ、その理念と役割を深め合っていく場を広げ、主体的な協同組合・市民協同組織への人の関わりを広げていきます。

①協同組合・市民協同組織の理念と役割を深め合う場の創出

各地域で活動する協同組合・市民協同組織にとってその活動の支え、展望を広げ合うことができるよう、協同組合・市民協同組織の理念と役割を深め合う場の創出に取り組んでいきます。名古屋市立大学での寄付講義を始め、こうした場づくりは、研究センターにつどい会員・市民の参加と連携と実践を力に取り組んでいきます。

②学び合いの場の充実

協同組合・市民協同組織に働く職員が、くらしの未来を展望し、協同組合・市民協同組織の役割を發揮していくための学び合いの場として、共同購入事業マイスターコース、組合員理事ゼミナール、協同の未来塾を、まずは、2016年度まで継続するなかで、次のあり様を探求していきます。

4. 各年度の計画の柱について

(1) 2014年度計画

研究センターが、地域を軸とした活動に取り組むためのあり方を検討し仕組みづくりをすすめます。

- ①地域懇談会・地域のつどいに取り組み、地域を軸にした研究センターのあり方と、それを支える仕組みについて検討していきます。
- ②地域を軸にした活動を会員・市民の参加ですすすめるための情報の交流・蓄積・発信について、これまでの研究センターのあり方を見直していきます。
- ③地域と協同の研究センターが取り組む協同組合・市民協同組織の理念と役割を深め合う場、学び合う場について、ひとつひとつの場の目的を明確にし、そのあり方を確立していきます。

(2) 2015年度計画

2014年度に続き、地域を軸とした活動に取り組む仕組みについて、実践を重ね、形にしていきます。

- ①地域を軸とした研究センターのあり方、それを支える仕組みを形にし、会員の参加でつくる学び、交流し、研究する場が安定してつくられていくことを目指します。
- ②地域を軸とした研究センター活動につながる、研究センター会員・市民が求める情報の交流・蓄積・発信を確立していきます。
- ③この間の協同組合・市民協同組織の理念と役割を深め合う場、学び合う場を継続し、より多くの会員の声を聴き、充実させます。

(3) 2016年度計画

形になってきた地域を軸とした活動の到達点をまとめ、次期中期目標につながる展望をつくっていきます。

- ①地域を軸とした研究センターの活動をすすめ、確立し、次のあり方について展望できるようにします。
- ②地域を軸とした、会員・市民が求める研究センター活動を通じた情報の交流・蓄積・発信について、そのあり方を確立し、次のステップが展望できるようにします。
- ③研究センターでつくる協同組合・市民協同組織の理念と役割を深め合う場、学び合う場のあり方について、その段階での到達点をまとめ、次のあり方を展望できるようにします。

資料 第三期中期目標と2014年度～2016年度の計画

分類	第三期中期目標	2014年度計画		2015年度計画	2016年度計画	
年度目標		地域に軸とした活動に取り組むためのあり方を検討し仕組みづくりをすすめます。		実践を重ね、形にしていきます。	次期の展望をつくっていきます。	
地域を軸にした研究センター活動の探求	地域と協同の研究センターの取り組みは、今後地域を軸にすすめることを探求します。 実践は、会員・市民、みんなの参加ですすめます。	地域懇談会・地域のつどいに取り組む中で、地域を軸にした研究センターのあり方と、それを支える仕組みについて検討していきます。	三重地域	多彩な団体・個人との交流 地域での研究センター活動を考える	地域を軸とした研究センターのあり方、それを支える仕組みを形にし、会員の参加でつくる学び、交流し、研究する場が安定してつくりたいことを目指します。	地域を軸とした研究センターの活動をすすめる、確立し、次のあり方について展望できるようにします。
			三河地域	地域づくりを考え合う 生協組合員や職員が参加でき 地域活動につながる活動		
			岐阜地域	「村おこし協力隊員」「集落支援員」に学ぶ 飛騨地域での学び		
			尾張地域	会員・市民でつどう場づくり		
			食と農パネル	「食と農」に関わって協同組合・市民協同組織でつどう場づくり		
			地域福祉を支える市民協同パネル	地域の訪問調査実施と、その成果の発信 岐阜地域も対象に		
			環境パネル(自然の環 人の輪)	東海3県の環境活動の交流を継続 エネルギー問題について調査		
			研究フォーラム生協職員の仕事を考える	センター長のヒアリング・組合員の聞き取り調査のまとめ 今後の活動の検討		
協同組合・市民協同組織の交流・学び合い研究	協同組合・市民協同組織に関わる交流し、学び合い、研究をすすめる、その理念と役割を深め合っていく場を広げ、主体的な協同組合・市民協同組織への人の関わりを広げていきます。 協同組合・市民協同組織に働く職員が、くらしの未来を展望し、協同組合・市民協同組織が役割を發揮していくための学び合いの場を継続し、次のあり様を探求していきます。	この間の協同組合・市民協同組織の理念と役割を深め合う場、学び合う場を継続し、より多くの会員の声をつなげ、充実させます。	研究会	「生協の(未来の)あり方研究会」の成果から研究集会開催 新しい研究会の支援	つくってきた協同組合・市民協同組織の理念と役割を深め合う場、学び合う場を継続し、より多くの会員の声をつなげ、充実させます。	研究センターでつくる協同組合・市民協同組織の理念と役割を深め合う場、学び合う場のあり方について、その段階での到達点をまとめ、次のあり方を展望できるようにします。
			総会記念シンポジウム 国際協同組合デー 記念企画	協同組合・市民協同組織が持つ課題に関わって学び合う場づくり		
			東海交流フォーラム	協同組合・市民協同組織の実践交流		
			共同購入事業マイスターコース開講	第6期共同購入事業マイスターコースの開講		
			新任組合員理事ゼミナール	協同組合を支える役員の学び合いの場として準義		
			協同の未来塾	協同組合を支える職員の学び合いの場として開講		
			名古屋市立大学寄付講義	協同組合・市民協同組織を学ぶ場「現代社会と地域と人のつながり」開講		
研究センターの運営と情報発信	目標とする研究センターの実践は、会員・市民、みんなの参加ですすめます。 地域を軸とした研究センターのあり方に対応する情報発信のあり方の探求	地域を軸にした活動を会員・市民の参加ですすめることができるための情報の交流・蓄積・発信について、これまでの研究センターのあり方を見直ししていきます。	研究奨励助成	第3期研究奨励助成の研究報告会の開催と第4期研究奨励助成の準備	地域と軸とした研究センター活動につながる、研究センター会員・市民が求める情報の交流・蓄積・発信を確立していきます	地域を軸とした、会員・市民が求める研究センター活動を通じた情報の交流・蓄積・発信について、そのあり方を確立し、次のステップが展望できるようにします
			研究センターNEWS フェイスブック ホームページ 成果の発行物	地域を軸とした情報発信のあり方探求		

第4号議案 理事・監事の選出及び顧問委嘱承認の件

2014年5月20日をもって、第8期役員（2012年7月～2014年5月）の任期が満了しますので、定款第16条に基づき通常総会において、第9期理事・監事を選出します。選出する役員定数は、定款第14条にもとづき理事35名、また監事の協議から監事2名とします。役員任期は、2014年5月30日から2016年5月20日までの2年間です。各役員の出選区及び定数は、次の通りとします。

理事：愛知地域 14名、岐阜地域 6名、三重地域 6名、全体枠9名 以上35名

監事：全体枠 2名

※全体枠とは、県域を越えた連合組織所属・研究センター運営に関わる役員及び東海3県以外に在住する会員の選出枠です。

理事・監事の出選に当たり、役員選出規約第4条第2項にもとづき、立候補受付を公示します。理事・監事に立候補する方は、5月22日までに選出区を明らかにして、役員選出管理委員会に立候補の届け出を行ってください。

2014年通常総会役員選出管理委員会

第5号議案 定款変更の件

1. 定款第25条にもとづき、定款第50条を次の通り変更します。

※定款25条の内容

定款25条 総会は、以下の事項について議決する。

(1) 定款の変更

変更前	変更後
第50条 この法人の事業報告書、 <u>収支計算書</u> 、貸借対照表及び財産目録等の決算に関する書類は、・・・・・・・・	第50条 この法人の事業報告書、 <u>活動計算書</u> 、貸借対照表及び財産目録等の決算に関する書類は、・・・・・・・・

<変更理由>

2011年6月15日に特定非営利活動法人法の改正案が成立し、2012年4月1日から施行された。その中で、NPO法人が作成すべき会計書類のうち、「収支計算書」について、活動に係る事業の実績を表示する「活動計算書」に改められた。その主旨に沿い、第50条にある「収支計算書」の表記を、「活動計算書」に変更する。

特定非営利活動法人地域と協同の研究センター 2013年度通常総会議事録

1. 日 時 2013年5月30日(木) 開会 10時30分 閉会 12時10分

2. 会 場 生協生活文化会館4階ホール

3. 出席者(議案採決時の出席数)

<内訳>

	出席者	実出席	委任	書面表決	正会員数	出席率
個人正会員	162	74	0	88	238	68.0%
団体正会員	16	8	0	8	18	88.8%
	178	82	0	96	256	69.5%

4. 審議事項

- (1) 第1号議案 2012年度事業報告と決算承認の件
- (2) 第2号議案 2013年度事業計画と予算決定の件
- (3) 第3号議案 役員の一部補欠選出の件

5. 議事経過の概略及び議決の結果

(1) 開会

定刻となり司会者の山下隆之常任理事が、総会の出席者について、開会時点で169名(実出席73名、書面表決者96名)となり、5月30日現在の正会員256名(個人正会員238会員、団体正会員18会員)の過半数129名に達していることを報告し、定款29条に基づき、2013年度通常総会を開会することを宣言した。

(2) 議長選出及び議事録署名人の選任と書記の任命

司会者が議長の選出方法について諮り、理事会から推薦することにつき異議なく承認されたので、理事会が推薦した服部ゆかり理事、川元チエ子理事を紹介し、満場一致をもってこれを承認し、本人も了解して議長の任についた。

議長が議事録署名人に田所登代子会員、飯村初美会員を提案し、異議なく選任された。つづいて議長は書記に研究センター事務局の伊藤小友美会員を任命した。

(3) 代表理事あいさつ

総会の開会にあたり、川崎直巳代表理事が、次のようなあいさつを行った。

今日は、第13回通常総会に、お忙しい中、お集まりいただきありがとうございます。

また、日頃から地域と協同の研究センターの活動に、ご協力、ご支援いただき、お礼申し上げます。

地域と協同の研究センターも第13回の総会を迎えることになりました。この2013年度は、第二期中期目標3年目という最後の年度になります。掲げた目標の内容に沿って計画をすすめ、同時に次の中期計画をつくってがんばっていけるよう今日の総会でもご論議いただけるよう、よろしく願いいたします。

私が2012年度を振り返って印象深いことが二つありました。

一つは、東日本大震災が発生して2年が経過し、協同組合のみなさんや、個人のみなさんが震災復興と、関連して新たに発生した問題に対し、継続して取り組むことの重要性が強調されています。本日参加いただいた皆様の組織や個人が、全力で取り組みをされた結果だと思えます。地域と協同の研究センターとしましても、そんな組織や個人の取り組み応援できるよう、情報交換をしたり、活動の紹介をしたりと、微力ではありますがお役に立てているのではないかとことです。

もう一つは、国連が定めた2012国際協同組合年です。これも会員の皆様中心に旺盛な活動が取り組まれました。東海3県では、県を越えて東海というエリアで協同組合が一堂に会し、協同組合の役割や、社会的な可能性について、新聞広告やシンポジウムを通じてアピールすることができました。節目として、社会に対し発信する大き

な役割を果たすことができたとうれしく思っております。そんな到達点も踏まえまして、2013年度の活動や、これからの役割を考える上で、協同組合は内発的な力を持っており、発展していく可能性があり、今までの実績をつくることができたのではないかと強く感じています。

今、私たちをとりまく環境は大きく変化しています。そういう外部の変化を認識し、だからどうするかということかと思えます。協同組合は自ら出資し、利用し、運営するという大原則を常に大切に、活動をすすめています。株の問題、円安の問題、原発の問題等、外圧が大きければ大きいほど、内発的な力をどう高めていくのか、私たちがそういうことにテーマを持って取り組むことに意味があり、大きな価値があるのではないかと思います。

協同組合の役割は、現場で働く職員や、主人公である組合員の皆様の、地域における連携・連帯につくるのではないかと思います。そんな協同組合の役割を、ますます発揮し、強化できるよう有意義な総会にさせていただければと思います。

(4) 議案の審議及び結果

向井忍専務理事から、議案書に基づき第1号議案2012年度事業報告と決算、第2号議案2013年度事業計画と予算について提案があった。また監事を代表して中山好治監事が監査報告書に基づき監査の報告をした。

次に理事会からの議案提案に基づき、会員からの質疑、意見発表が行われた。

吉田法子会員：「研究フォーラム職員の仕事を考える」の世話人としてその活動を紹介させていただきます。継続的に取り組んできました「生協職員の仕事を語る会」も、2012年度で第8回を迎えました。参加いただいた組合員さんには、商品、暮らし、職員に関わって語っていただきました。どなたも生協商品が暮らしに密接に関係しているばかりでした。2013年度は生協が暮らしの真ん中にはない組合員さんに聞き取りを実施します。生協の価値はどこにあるか、職員はどう関わるか、問題提起になるよう、世話人会で聞き取り調査に取り組み、報告書にしたいと準備しています。

飯村初美会員：食と農パネル世話人です。昨年度は、「げんきの郷」の調査活動で、生産者と野菜ソムリエが取り組まれていること、例えば、はれの日用に切り口がハートや星型になるきゅうりや、ほうれん草は生産者自らが美味しく感じる茹で時間を分単位でチェックし、商品価値を追及していること等をお聞きしました。またピーマン一筋で、蜜蜂交配や、天敵昆虫を使って害虫駆除を行い、頑張っている近藤園芸の調査見学も行き、食に関する事、持続できる農業について考え合ってきました。今年度は7月に「食を支える地域農業について学ぶ」というテーマで学習会を計画しています。

山口直子会員：環境パネルの活動を紹介させていただきます。2012年11月3日に、午前は三重県の多度でイヌナシ自生地の保全活動として、草刈りと実生の保護を行いました。午後は、長良川河口堰のところにあるアクアプラザながらを見学し、水の大切さと暮らしについて学習しました。3月11日には、食品残渣肥料について、バイオプラザなごやの方の話を聞き、5月22日には、バイオプラザなごやの施設見学を行いました。7月28日には、岐阜での原生林散策、アライダシトレッキングツアーを計画しています。

三河地域懇談会の報告もさせていただきます。昨年、9月29日に、第9回三河地域懇談会を開催しました。「災害の時代を生き抜く力～海からの提言」と題し、基調講演を青木先生にいただき、4人の方に報告いただきました。翌日オプションで佐久島の調査活動を予定していましたが、台風で朝一番に帰ってきました。そのため、この4月に佐久島に行く企画を計画し、地元の方の島おこしの話を聞きました。今年は11月下旬に第10回三河地域懇談会を同窓会的に開催する予定です。

津坂賢一会員：地域福祉を支える市民協同パネルの報告をさせていただきます。2012年度は公開世話人会を4月14日に開催し、生協しまねの常務理事大木さんから、「班の中にある組合員の暮らしの結びつき」についてお聞きしました。6月から、座談会を4回実施しました。実際に地域の中で何が起きているか、その中で地域に住んでいる方が、どういう思いでどういう活動をしているか、協同して変化をつくらないといけないという志をもって活動している人と、どう結びついているかを検討し、それぞれの座談会の様子を冊子にし、普及してきました。

また個人が参加している友愛研究会で、友愛・協同研究会年報を配布しています。

熊崎辰広会員：コープぎふを、今年、定年退職しました。職員と組合員で、一緒に12年前から「生協の今とこれからを考える研究会」をつくってきました。今年、定年退職を機に、一旦閉じようということになりました。研究会ではセンスオブコープをつくり、今回で6冊目ですが、最終号になります。ぜひお読みください。

加藤和広会員：大学生協東海事業連合の加藤です。新たに大学生協グループとして、地域と協同の研究センターにお世話になることになりました。グループとしてまとまって加入させていただきました。

私自身は、大学生協以外に一般社団法人「協同・夢プロジェクト」の代表もしています。そこで議論を重ねてく中で、「大学生に、いかにして協同組合の体験を提供するのか」「そういう経験をした学生を地域の協同社会にどうつないでいくのか」という問題意識を持つようになりました。学生の生活は、変わってきています。SNSが発達し、事前にラインでつながり、顔は知らないが、新歓企画がある時点で、100人単位でグループができてることがあります。そういう中で、顔と顔を突き合わせた協同をどうつくっていくのか、改めて考え直さなければと思っています。研究センターでは、そういう学生の生活スタイルの変化も伝え考えていきたいと思っています。

もう一つ研究センターでご検討いただきたいのは、寄付講座です。大学で、協同組合に携わった方が、先生のご指導のもと、経験を伝えながら講座を開設するものです。東海の大学で、生協について知らない学生に、協同組合のことを伝え、単位が認定される講座をつくっていければと思います。

岡本一朗会員：「三重のつどい」のことについて報告します。この1月に、三重県多気町にある「まめや」という農村型の食堂へ行き、代表をされている北川さんに話をお聞きしました。その後、近くにある立梅用水小水力発電を見学してきました。この発電は、今年から本格的にやるということで、獣害対策用柵の電気としてスタートするという事です。地域で話を聞くと、体感し、伝わり、感じるがあります。8月には多気町にある高校生レストラン「まごの店」に行く予定です。

もう一つ獣害被害が大変ですが、その鹿肉を使った料理教室を開催します。三重県では有名なミュゼボンヴィヴァンの出口シェフを講師に行います。いろんな方に参加してもらい、研究センターの会員になってもらいたいと思います。一人でも会員が増える活動になればと、そんなことで三重のつどいができたらと思っています。

青木文子会員：ぎふ「協同労働の協同組合」勉強会で2011年より勉強会をしています。最初は協同労働の協同組合のあり方がおもしろいと思って、一般の人に声をかけて始め、最初はワーカーズコープ東海の方から講師に来ていただき、勉強会を重ねています。今日はコープぎふの方とつながりたいと思います。今年は協同センターぎふで、協同で福祉を考える、エネルギーを考えるというように実践の支援を考えたいと思っています。

発言を受け、向井忍専務理事より理事会としてのまとめが行われた。

8名の方から発言いただきました。

フォーラム、パネルの呼びかけにはぜひみなさん積極的にご参加ください。そこで話し合われていることを、2013年度は、研究センターNEWSの特別号等で、しっかり財産にできるようにしていきたいと思っています。みなさんの協力と参加をお願いします。

地域懇談会の広がりも、岐阜での協同センターの呼びかけも、地域での広がり、それぞれのみなさんのつながりを生かせることと思います。そういう組織づくりを通して、私たちの組織が広がることは、本来目指してきたことです。その意味で地域ごとのつながりを大事にしていきます。

会員の活動についても、熊崎さんから12年間続いた研究会の報告をいただきました。津坂さんからは、友愛と協同研究会の事例も報告いただきました。それぞれから発信いただいていることは、大いに交流し、進むようにしたいと思います。研究奨励助成は、助成を実施した6つのグループを支援する委員会をつくり、実施できるようにしました。

寄附講座の呼びかけがありましたが、可能であればぜひ具体化したいと思います。協同組合を研究される研究者のみなさんが、大学の中でも継承されるようにできればと思います。

大学生のくらしが変わってきているということもありました。人を通したつながりの体験が少なくなっている若者が増えているということです。多くの人がイメージする状況とは、相当変わってきているということかと思えます。そういう世代の人と、協同組合の実践を通して講座なりを考え、直接語りかけることができれば、おそらく若者への大きなメッセージになると思います。私たちの世代の社会責任として、協同することの意味、希望を伝えることができればと思います。

研究センターが会員によってつくられ、多くの協同活動によって成果が生み出されているということが確認できたと思います。ご意見の内容は、本年度の中期計画づくりにも生かして、理事会としても実現できるように引き継ぎたいと思います。ありがとうございました。

以上をもって討論を終え、採決に入ることを議長が宣言した。

第3号議案の役員の一部補欠選出について、役員選出管理委員の下里玉美理事から、役員の任期は2年であるが、理事を退任される方がおり、補欠選出を行うことを第7回理事会にて決め、立候補受付の告示をしたところ、三重地域で1名の理事立候補があったと報告された。続いて役員選考委員の吉田法子会員から、候補者名簿に基づき立候補者の紹介があり、投票を行い、過半数の得票をもって選出されたものとする選出方法の説明があり、投票を行った。

投票の結果、役員選出管理委員が、候補者が過半数の支持を得て理事に選出されたことを宣言した。次の者が退任する理事と選出された理事である。

退任理事：山下 隆之 以上1名
選出理事：竹内 輝彦 以上1名

続いて議長が第1号議案、第2号議案について、それぞれ挙手で採決を行い、第1号議案、第2号議案については過半数の賛成で可決されたことを宣告した。採決結果は次の通りであった。

第1号議案 2012年度事業報告と決算承認の件 反対0 保留1 賛成175で承認
第2号議案 2013年度事業計画と予算決定の件 反対0 保留2 賛成174で決定

すべての議案の議決が終了したことを議長が宣言し、議長を退任した。向井忍専務理事が、通常総会の閉会をつげ、12時10分閉会した。

上記の議事を明確にするため、ここに本議事録を作成し、議長及び議事録署名人において、次に署名押印する。

2013年5月30日

特定非営利活動法人地域と協同の研究センター2013年度通常総会

議長 服部 ゆかり 印

議長 川元 チエ子 印

議事録署名人 田所 登代子 印

議事録署名人 飯村 初美 印

研究センターニュース特別号

特集 **2014年度通常総会議案**

(総会開催日 2014年5月30日)

発行日 2014年5月12日

発行所 特定非営利活動法人
地域と協同の研究センター
代表理事 川崎直巳

〒464-0824
名古屋市千種区稲舟通1-39
電話 052-781-8280 Fax 052-781-8315